決算特別委員会の審査概要

平成16年度一般会計 予算執行の一部に瑕疵（かし）

一般会計

市史編さん費の支出手続上の不手際問う

議員　十六年度の市史編さん費は「平塚市史八資料編　現代」を刊行するための経費だが、現在の進捗状況を聞きたい。

博物館上席館長代理　この市史はおおむね完成しているが、市史編さん協議会委員から、個人情報などに関する問題点を指摘されたため、現在修正作業を行っている。

議員　完成していない市史の印刷製本費が支出されることになった経緯を聞きたい。

博物館長　平成十七年一月十四日に入札を行い、業者を決定して原稿を入稿した。その後、数回の校正を経て三月下旬には校了が可能と思われるゲラが完成した。完成を見込み同年三月三十一日付けで検収を行い、五月初旬に提出された請求書により支払手続を行った。完成の見込みで検収等を行った点については、事務手続上、明らかに瑕疵があったものと認識している。

議員　組織としてのチェック体制に問題がある。書類の体裁を整えれば予算の支出が行われてしまうとも受け取られる。この点についてどのように考えているのか。

助役　事務手続上にさまざまな不手際があった。今後は適正な事務処理に努めていく。

16年度に完成した「紅谷町まちかど広場」

コーディネーター町内福祉村に配置

議員　平成十六年七月から配置された地域福祉コーディネーターの配置状況を聞きたい。

福祉政策課主管　十六年度は六地区の町内福祉村に配置し、現在は七地区で一二人が登録されている。

議員　地域福祉コーディネーターを配置した目的と役割を伺いたい。

福祉政策課主管　コーディネーターは保健福祉サービスや悩みごとの相談を身近な地域で受けるために配置したものであり、必要に応じて市や在宅介護支援センターなどの専門機関の相談窓口と連携する役割を担っている。一方、他の福祉団体とのネットワークづくりや、支援を必要とする人に町内福祉村のボランティアを派遣するコーディネーターの側面も持っている。

議員　コーディネーターの配置によって得られた効果について伺いたい。

福祉政策課主管　コーディネーターが専任化され、町内福祉村に週四日常駐することで、継続的な相談や支援が可能となり、事務引き継ぎも円滑になった。また、在宅介護支援センターとの連携も強化された。さらに、ボランティアが町内福祉村の活動に参加することで、来所しやすい雰囲気が醸成される効果もあった。

緊急消防援助隊中越地震被災地へ

議員　平成十六年十月に発生した新潟県中越地震に際し、本市が派遣した緊急消防援助隊の編成と派遣日数を聞きたい。

警備課長　被災地へは、消防ポンプ車の消火隊一隊五人と、この消火隊が現地で円滑な活動を行うための後方支援隊の一隊二人を合わせた計七人を五日間派遣した。

議員　援助隊が被災地で行った活動を通じて参考になった点、本市でも危惧されるような防災上の課題を伺いたい。

消防長　中山間部という特殊な地域での災害であり、住民の孤立化が浮き彫りになった地震である。本市西部地区での発生を想定した場合にも同様の問題が懸念され、同地区の消防力の強化が課題の一つとして挙げられる。

新総合計画の策定基礎調査の委託内容

議員　新総合計画策定基礎調査の委託内容について聞きたい。

企画課長　委託調査内容は、現在の社会経済情勢と本市の人口や行財政、市民活動等の現状、あるいは子育てや高齢社会等への対応状況、また、土地利用形態、産業構造、文化、教育、環境等の基礎的な調査である。さらに本市の主な施策、現行の総合計画の進捗度、（仮称）次期平塚市総合計画の策定に向けた現状分析等を通じ、まちづくりにおける課題を抽出するための調査委託である。

病院事業会計

経営改善に努力続く

議員　十六年度の病院事業決算が赤字となった要因を聞きたい。

病院長　最大の要因は、厚生労働省の方針に従い早期治療や早期退院、患者の在院日数の短縮に努めてきた一方で、入院等の患者数が減少したことである。また、看護師の減少により、五〇〇床のベッドの回転率が低下した点も挙げられる。

議員　病院が独自に診療点数を決められる自由診療に係る費用の引き上げの考えについて聞きたい。

外科系診療部長・病院事務局長・医事課長　近隣の自治体病院間で格差がある健康診断料と三十年近く据え置いている分娩料の引き上げを引き続き検討していきたい。

患者との信頼確保病院全体で医師育成

議員　患者との信頼確保のため、どのような指導を医師に行っているのか伺いたい。

病院長　診療に関するあらゆる事項の報告を徹底するよう指示している。また、早期に適切な診断が行えるよう指導しており、病院全体で医師を育成する体制を整えている。

議員　病院経営に関する医師の意識の在り方をどのように考えるか。

病院長　患者の治療に全力を尽くしつつ、経営や採算も念頭に置きながら診療を行うよう、意識を変えていきたい。

老人保健医療事業特別会計

議員　十六年度の老人医療費を前年度と比較すると、受給対象者数の減少に伴い、給付件数、給付額、患者負担額が減っており、総医療費も減少している。この結果をどうとらえているのか。

保険年金課上席課長代理　平成十四年十月に、受給対象年齢を毎年一歳ずつ引き上げ、患者自己負担額も引き上げる内容の高齢者医療制度改正が行われた。しかし、当時の想定と比べ給付額や医療費総額が減少していない。これは、通院から入院への移行と終末期医療等の進展により、一人当たりの入院費が増加したことが理由だと考えている。今後は、受給対象者の減少と同様には医療費は減少しないと考える。

議員　将来の市の財政に与える影響について、どのように考えているか。

保険年金課上席課長代理　平成十九年九月までは受給対象人口は減少するが、対象年齢の引き上げにより、以降は毎年受給対象人口が増加し、給付額、医療費総額とも増加すると考えている。また十四年度の改正時には、公費負担割合を毎年四％ずつ、五年間で五割負担まで引き上げることとされており、市の負担額も確実に増加すると推計している。

議員　高齢者の負担はどうなるのか。

保険年金課上席課長代理　平成十八年の通常国会に高齢者の医療制度改正案が提出され、一定以上の所得者の負担割合を引き上げるとの情報もあり、高齢者の負担増が避けられない状況にあると思われる。

介護保険事業特別会計

議員　本市の介護サービスにおける施設の充足度について聞きたい。

介護保険課長　現在本市には四五二の介護施設があるが、入所待機者も八〇〇人程度となっている。しかし、平成十七年十月に五四床の新たな特別養護施設が完成し、若干ではあるが、待機者の解消につながると考える。また、待機者も対象とした多様なサービスとしては、グループホームや介護付有料老人ホーム等も開設されている。

議員　介護サービスに重要な役割を果たしているケアマネジャーに対して本市では、どのような教育を行っているのか。

介護保険課長　本市では、ケアマネジメントリーダー活動支援事業を実施しており、十六年度は住宅改修についての講演会を開催し、約一五〇人のケアマネジャーのうち一〇〇人以上が参加した。またケアマネジャーに対する苦情に関しての相談会なども開催した。

決算特別委員会では、一般会計および特別会計決算の認定を否決し、本会議でも否決しましたが、すでに行われた予算執行の効力に影響はありません。

請願の審査概要

十二月定例会では二件の審査が行われた。

安全安心な農・畜産を平塚市、神奈川県に推進するために遺伝子組み換え作物の栽培規制を要望する請願では、現在、遺伝子組み換え食品に対する市民の関心は日々高まっている。北海道では安全安心条例の中で遺伝子組み換え作物を自由に栽培させないことを規定しており、本市でも屋外圃場での遺伝子組み換え稲の栽培が、市民の力を結集し中止になった。しかし、神奈川県都市農業推進条例には遺伝子組み換え規制の語句が入っていないため、都市農業の持続的な発展に関する指針に盛り込み、市民の食に対する安全性への信頼を高めていくことが大切だと考えるので、本請願は採択すべきであるとの意見があった。一方、この県条例では、数条にわたり農作物の安全・安心が規定されている。安全・安心ということは、遺伝子組み換え作物を栽培しないということである。県議会も同様に理解しており、県知事も同じ考えである。このことから遺伝子組み換え作物の栽培規制を新たに指針に盛り込む必要はないと考えるので不採択とすべきであるとの意見があった。また、請願の第一項目の「平塚市において安全安心な農・畜産の推進策を講じること」は、理解し認識しているが、第二項目の県への意見書の提出は、趣旨に適さないものと判断するので第一項目のみの一部採択とすべきであるとの意見もあった。委員会では採択、一部採択、不採択、いずれも過半数に至らず、本会議においても、いずれも議決に必要な出席議員の過半数の賛成を得ることができず、本請願は議決するに至らなかった。

「馬入本町の高層マンション計画」についての請願では、本請願は高層マンション建設によって平塚の原風景が消えることを危惧する市民から「寺町の環境を奪わないでください」「くらしの環境を守ってください」という二項目について提出されたものである。高層マンション計画が続く中、本市は建物高さの規制に向け、高度地区指定の準備を進めている。このような中、指定前の駆け込み建設とも受け取れる高層マンション計画に対し、住民が地域の住環境や景観を守りたいという願意は理解できるので、本請願は趣旨採択とすべきであるとの意見があった。採決した結果、不採択とすべきものとなり、本会議でも不採択と決定した。